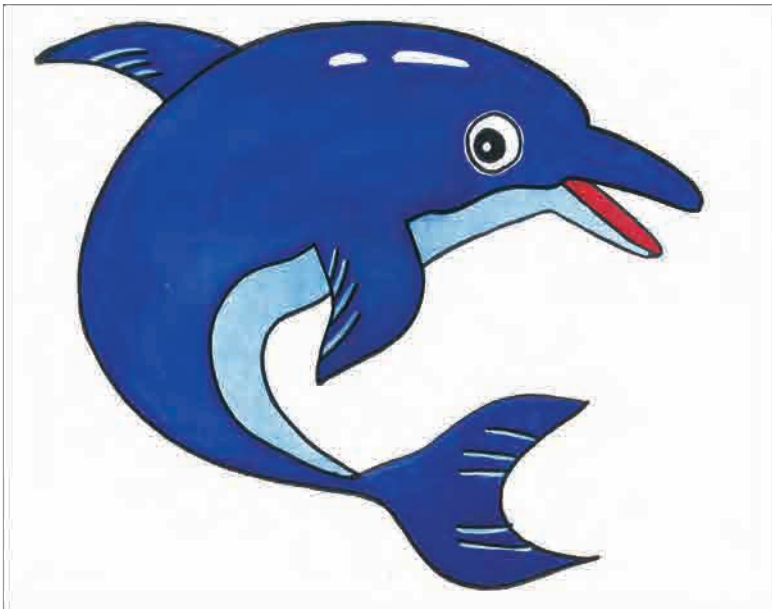


目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (ことば編)
- 3 童謡 海
- 4 回文 イルカはかるい
- 5 今月の詩 夏の夜 島崎藤村
- 6 たし算 4の段
- 7 ことわざ 能ある鷹は爪を隠す のどから手が出る
のど元すぎれば熱さを忘れる 残り物に福がある
のれんに腕押し
- 8 かけ算 5の段
- 9 俳句 芥川龍之介 松尾芭蕉 小林一茶
- 10 かぞえうた 5羽 10羽 15羽 (すずめ)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた おちゃらかほい
- 13 今月のうた 音の数
- 14 慣用句 音を上げる 歯が立たない 目もくれない
- 15 イメージトレーニング スティーム (第4話 火星探検)
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし 金のがちょう
- 17 漢詩 江村
- 18 百人一首 猿丸大夫 凡河内躬恒 源俊頼朝臣 左京大夫道雅
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

イルカはかるい



なつ
夏の夜

しまざきとうそん
島崎藤村

きみ あそ なつ よ
君と遊ばん夏の夜の
あお ば かげ した ず
青葉の影の下すゞみ
みじ ゆめ むす
短かき夢は結ばずも
せめてこよいは歌えかし

くも あめ
雲となりまた雨となる
ひる うれ
昼の愁いはたえずとも
ほし ひかり み
星の光をかぞえ見よ
たのし よ つ
楽みのかず夜は尽きじ

ゆめ つ あま がわ
夢かうつゝか天の川
ほし かり ね おり ひめ
星に仮寝の織姫の
ひ び
ひゞきもすみてこいわたる
おさ とお ね き
梭の遠音を聞かめやも



ことわざ

のう たか つめ かく
能ある鷹は爪を隠す

じつりょく さいのう ひと じまん
実力や才能のある人は、むやみにそれを自慢したり、
み
見せびらかしたりしない。



て で
のどから手が出る

なに
何かがほしくてたまらないこと。



もと あつ わす
のど元すぎれば熱さを忘れる

くる す き わす くる
苦しいことも、過ぎ去れば忘れてしまう。苦しいとき
たす らく おん わす
に助けてもらっても、楽になると恩を忘れてしまう。



のこ もの ふく
残り物に福がある

ひと えら あと のこ もの おも よ もの
人が選んだ後の残り物には、思わぬ良い物がある。



うで お
のれんに腕押し

あいて はたら て は あ
相手に働きかけても、手ごたえがなくて張り合いのな
いこと。



俳句

どんてん まむしい お びん なか
曇天や 蝮生き居る 罎の中

あくたがわりゅうのすけ
芥川龍之介



くさは お と ほたる
草の葉を 落つるより飛ぶ 蛍かな

まつおばしょう
松尾芭蕉



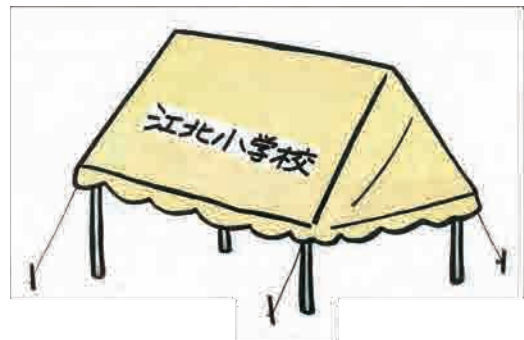
う はえ て あし
やれ打つな 蠅が手をすり 足をする

こばやし いっ き
小林一茶



なぜなぜ

- 1 自分^{じぶん}のからだを^{ちい}小さくしながら、くらやみをてらすものはななに？
- 2 骨^{ほね}と皮^{かわ}だけなのに^く組み立てると^{いえ}家になるものななに？
- 3 おなか^{なか}いっぱいになると^{から}っぽになってしまうものはななに？
- 4 荷物^{にもつ}をいっぱいもってくれるけど、^{ひと}人の^{せなか}背中で^{らく}楽をしているものはななに？



《おちやらかほい》

① せっせせの



て
手をつないで上下に
かい
3回ゆらす

② よいよいよよい



そのままこうささせ、
かい
上下に3回ゆらす

③ おちや



て
みぎ手でじぶんの
ひだり手をたたく

④ らか



て
みぎ手であいての
ひだり手をたたく

⑤ おちやらか
おちやらか

③~④を2回
かい
くりかえす

⑥ ほい



じゃんけんする

⑦ おちやらか

③~④を
くりかえす

⑧ かったよ



よろこぶ

(あいこで)



こしに手をあてる

(まけたよ)



なくまねをする

⑨ おちやらか ほい

③~④、⑥とくりかえす

今月のうた

《音の数》 おと かず

おと かず て
音の数だけ 手をたたこう

パンダ ♪ ♪ ♪ のりまき ♪ ♪ ♪ ♪

ゆびわ ♪ ♪ ♪ わたがし ♪ ♪ ♪ ♪

「きって」は「きつて」と ♪ ♪ ♪

「ノート」は「ノウト」と ♪ ♪ ♪

「むぎちゃ」は3回^{かい} ♪ ♪ ♪

じょうろ ♪ ♪ ♪ シャベル ♪ ♪ ♪

ちょきんばこ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

さあ^{れんしゅう}練習してみよう



音^ねを^あ上げる

苦し^{くる}さや困^{こん}難^{なん}に耐^たえきれず、弱^{よわ}気^きなことを言^いったり、
気^き力^{りよく}をなくすこと。



歯^はが^た立たない

相手^{あいて}が強^{つよ}すぎたり、物事^{ものごと}が難^{むずか}しすぎて、とてもかな
わない。



目^めも^くれない

ま^{かん}ったく関^{しん}心を^{しめ}示さず、見^み向^むきもしない。



おはなし



「^{きん}金のがちょう」は、こびとに親切にしてあげた男^{おとこ}がお姫^{ひめ}様と結婚^{けっこん}するお話^{はなし}です。
お話^{はなし}を聞いた後^{あと}で、質問^{しつもん}にこたえてみましょう。

- 1 こびとにパンと葡萄酒^{ぶどうしゅ}をあげたのは、誰^{だれ}ですか。
- 2 こびとが言^いった木^きを切ると、何^{なに}がでてきましたか。
- 3 娘^{むすめ}三人^{さんにん}の後^{あと}に、誰^{だれ}と誰^{だれ}と誰^{だれ}がつながりましたか。
- 4 お城^{しろ}のお姫^{ひめ}様は、どうい^いうお姫^{ひめ}様^{さま}でしたか。
- 5 王^{おう}様は、どうしていろいろな注文^{ちゅうもん}をつけたのですか。



江村

杜甫

清江一曲村を抱きて流れ
 長夏江村事事幽なり
 自ら去り自ら来たる 梁上の燕
 相親しみ 相近づく 水中の鷗
 老妻は紙に画きて 碁局を為り
 稚子は針を敲きて 釣鉤を作る
 多病 須つ所は唯だ薬物のみ
 微軀 此の外に更に何をか求めん



百人一首

奥山おくやまに

もみぢ踏ふみ分け

声聞こえく時ときぞ

秋あきは悲かなしき
鳴なく鹿しかの

(猿丸ざるまる大夫だゆう)

心こころあてに

折おらば折おらむ

置おきまどはせる
初霜はつしもの
白菊しらぎくの花はな

(凡河内躬恒おほしこうちのみつね)

憂う

人ひとかりける

初瀬はつせの山やまおろしよ
はげしかれとは
祈いのらぬものを

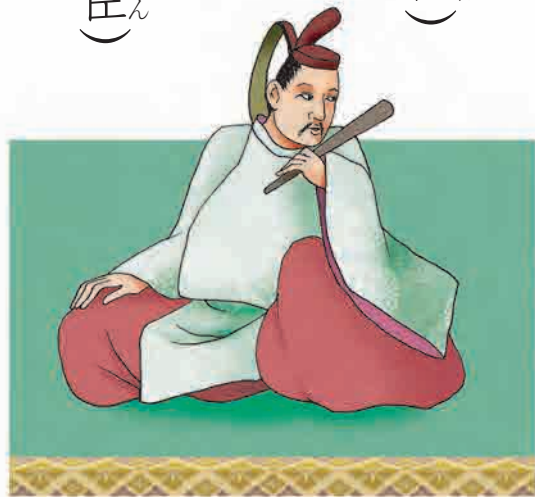
(源俊頼朝臣みなもとのとしよりあそん)

今いま

思おもはひただ

絶たえなむとばかりを
づてならでいふよしもがな

(左京大夫道雅さきやうのだいぶみちまさ)



凡河内躬恒